

SCOOOP

車界の断層

2000年の販売台数は激減



さて、どのような21世紀を迎えるのだろうか？（写真と本文は関係ありません）

すでに、ローバーの販売台数は今年に入ってから減少の一途をたどっている。日本自動車輸入組合（JAI）の統計では、今年1～10月のローバー車登録台数は5004台、対前年同月比56%減、と半減以下のペースだ。この中には在庫販売になっているミニ、フォード傘下で国内販売を継続す

いよいよ21世紀を迎えようという昨今、ローバー・ジャパンは安心して年越しできそうにない状況に陥っている。新型ミニをのぞく乗用車部門を引き継いだ英フェニックス・グループは日本市場に手が回らず、ランドローバー部門の売却を受けたフォードも財政にきびしく目を光らせている。はたして、ローバー・ディーラーの経営者とユーザーに、暖かい春はやってくるのだろうか。Report：車屋根次郎（Yanejiro Kuruma）

いよいよ国内ディーラーは販売契約を打ち切られる

2000年12月31日——この記念すべき20世紀最後の日は、国内にある英ローバーのディーラーにとって特別な意味を持つ。なぜなら、この日を最後にBMW・ジャパンとのローバー販売契約が打ち切られるからだ。独BMWからセダン部門の経営を引き継ぐフェニックスは経営再建に手いっぱい、地元英国や欧州市場での基盤固めもこれからなのに、日本市場になどかまっていられない。というのが一般的な見方。つまり、来年からは在庫や並行輸入をのぞいてローバーの新車にはお目にか

ローバー・ディーラーと2001年を予測する

るランドローバーも含まれていることを考えると、いかに販売台数が急減したかがわかる。

ランドローバーの99年の販売台数は3300台に過ぎず、同じ年に1万台以上を売ったローバー車（ローバー・ミニ・MG）の穴を埋めるのは無理な相談だ。本誌でも繰り返し取りあげている残価設定型ローンのRSO（ローバー・スマート・オーナーシップ）に関する問題もからみ、これから一体どうなるのだろうか。と、不安な年越しを迎えるディーラー経営者も多いことだろう。ここで、全国約50社100拠点のローバー・ディーラーやユーザーの2001年を予想してみたい。

ユーザーもディーラーもこれまで通りにはいかない

まず、ユーザーはどうだろう。BMW・ジャパンは全額出資でローバー車の部品供給を行う新会社「ローバー・サービスセンター」を設立しており、部品供給は継続される。たとえ購入店が倒産しても、同社を通じて代替店を紹介してもらえらるだろう。ただし、これまで通りの部品供給が保証されるわけではない。BMW・ジャパンは歴史も古く、認定中古車や無料メンテナンスなど、業界初の販売施策も多いのだが、系列ディーラーからの評判は必ずしも良くない

現状がある。

例えば、「イヤなら辞めて結構とばかりに法外な費用負担を強いる」「情報提供が遅く、内容もお粗末」「社長がコロコロ変わる不思議な会社」といった声は数多く聞かれる。「部品供給会社の設立は体裁を整えるだけ」と言い切っている関係者もあり、サービス水準には不安を残す。もっとも、ミニだけは専門店も多く、さほど心配する必要はなさそうだが。

ディーラーの場合にはもっとキビシそうだが、ローバー車の供給が途絶え、ミニも完売寸前。ランドローバーの新しい輸入元、ランドローバー・ジャパン（ヘクリストファー・エリス社長）は支援策を打ち出したい考えだが、親会社のフォードは力ネにふるさくことである。しかも、フォード日本会の会長で元マツダ社長のヘンリー・ウォレス氏が、現在はフォード本社の最高財務責任者だ。

ランドローバー・ジャパンのエリス社長は、フォード出身でマツダ勤務の経験もある。組織上は英国のランドローバー本社にマネジメントされるが、コスト削減に目を光らせるウォレス氏の影響（意向）を受けることは充分考えられる。ディーラーにとって唯一の希望の光は、ランドローバーの小型車「フリーランダー」くらいだ。



BMWジャパンには、旧ローバー・ディーラーを積極的に救済しようという姿勢はみられない。

また、BMW・ジャパンは2002年に日本で発売する新型「ミニ」のディーラー募集に、旧ローバー店を含める方針だが、「我われの出店条件をクリアすればの話」（BMW・ジャパン関係者）と、そこにはディーラーを救済しようという意味合いはほとんどないようだ。要するに「経営が苦しいローバー・ディーラーには用はない」ということだろう。

現行ミニを売り続けようと某輸入販売会社が口説いた

ミニに関しては、面白い話がある。この夏、日本の某輸入販売会社がフェニックスに対し、「現行ミニの輸入販売を継続しないか」と打診したら、何と言っても日本は現行ミニにとっては最大マーケット。その会社は、「こんな美味しい市場をみすみす捨てるのか？」「ミニを継続販売することで、日本の販売網を維持できる」と口説いたらしいが、時すでに遅し。

「フェニックスはBMWとの間で融資と引き替えに現行ミニの生産を停止することを含意していた」（事情通）ため、フェニックス側からさげなく断られたとのこと。

21世紀まであと1カ月足らず。2001年がローバー・ディーラーとユーザーにとって平穏無事な1年であるよう祈りたい。